

WFP 飢餓との 40年の闘い

WFP's 40 Years of Fighting Hunger



国連世界食糧計画
World Food
Programme

「1台の埃まみれのトラックが、
丘から村のほうへガタガタと音を立てて下って来ると、
子どもたちは悲鳴をあげ始めました。

武器を持った男たちがまた、
村を壊しにやって来たと思ったからです。

しかし、トラックのドアに描かれたマークを見ると、
叫び声は喜びに変わりました。そこには、
収穫された穀物の絵と『WFP』の文字があったからです。

私達はずいに食べ物にありつけるのです。

私はようやく、
娘の恐怖と困惑の眼差しを真っ直ぐ
見つめ返すことができるのです。
娘はそれまで1日中、次はいつ食べることができるのかと、
私に尋ねていました。

その瞬間まで、
私はその問いに答えられないでいたのです」

セナイト・ケベデ

1988年、エチオピアでの面談で



ウガンダ、1995年12月
ウガンダのカンパラからザイールの
ゴマへの65km.ルワンダ難民への
食糧を運ぶWFPのトラックの列
WFP/タリスピンヒューズ

Introduction

はじめに



連世界食糧計画（WFP）は、飢餓と闘うために設立されました。それ以来40年間、WFPは、いつでもどこでも必要とする人々に食糧を届けるという原則を、災害時だけでなく、過酷な貧苦と健康障害により社会経済の発展が阻害されている場所においても、体現してきました。人生の窮地でWFPの援助を受けていなければ、子ども時代を生き抜き、自ら健康な子どもを育てることができなかった人々は、数百万人に上るとみられます。悲しいことに、いまでも数百万の人々が、お腹を空かせたまま職場や学校に出かけています。飢餓という悲劇は、個人の命だけでなく、生き残った人々の創造力、生産性、そして希望をも奪ってしまいます。ですから、飢餓との闘いは今日でも、言葉と行動の両方で実践していかなければなりません。



朝鮮民主主義人民共和国、1998年

幼稚園で
WFPの援助を受ける
子ども

WFP／トム・ハスケル

WFPはこの理想の実現に取り組む唯一の機関（政府、非政府を問わず）ではありませんが、そのなかでも最大規模で、活動範囲の最も広い機関だと言えるでしょう。WFP設立40周年は、その活動の意義を改めて考える機会です。その目的は、これまでの努力を自画自賛するのではなく、将来の課題に取り組む決意を新たにすることにあります。WFP設立40周年は、これまでに多くの人々の命と生活が救われたことを祝うだけでなく、まだ手の届かない人々がどれだけたくさんいるかについて改めて考える機会でもあるのです。

Hungry for Action

飽くなき行動



スーダン、1991年

WFPとしては最大規模の活動の1つとなった、スーダンでの食糧投下作戦。2カ国の救援基地から、同国南部の100カ所以上に食糧を空輸した。

WFP／トム・ハスケル

今

今日の飢餓の多くは、計画的な政策の欠如がその根本原因となっています。貧しい農村部に適切な投資が行われなければ、農業の生産性の低下、高い妊産婦死亡率および経済的な衰退に至るのは、ほぼ必然と言ってよいでしょう。飢餓撲滅に向けた政治的意図がしばしば欠けていたのは、それほど昔のことではありません。しかし、政策立案者は今日、危機が発生して初めて

対応を行うよりも、順調な時期に人々の将来へ投資しておくことのほうが、経済的だということに気づき始めています。飢餓は貧困とは違います。貧困の場合には、現在の収入不足を将来の収入

で補うことができます。しかし、来月に食糧が届くからといって、現在の飢餓が和らげられるわけでもなければ、心身の成長へのダメージを完全に回復できるわけでもありません。飢餓に待ったをかけることはできないのです。状況の改善には、すばやい行動あるのみです。その実行には、効果的な緊急援助だけでなく、長期的な成長と発展を見据えた適切な投資も必要です。

WFPは設立以来、この現実に取り組んできました。当初の予定では、1963年から3年間、1億米ドル（現在の価値で）の予算で試験的に活動を行うことになっていました。しかし、世界情勢により、活動の前倒しを余儀なくされました。1962年9月にはイランで大地震が発生し、翌月にはハリケーンがタイを襲ったのです。その翌月には、新独立国のアルジェリアが、難民500万人の再定住のために援助を要請しました。いずれの場所でも、食糧援助が緊急に必要でした。さもないと、人々はまたたく間に苦境に陥り、死亡の危険性さえあったのです。WFPはただちに食糧援助を開始しました。WFPはいわば、歩けるようになる前から走り出し、それからずっと走りつづけているのです。

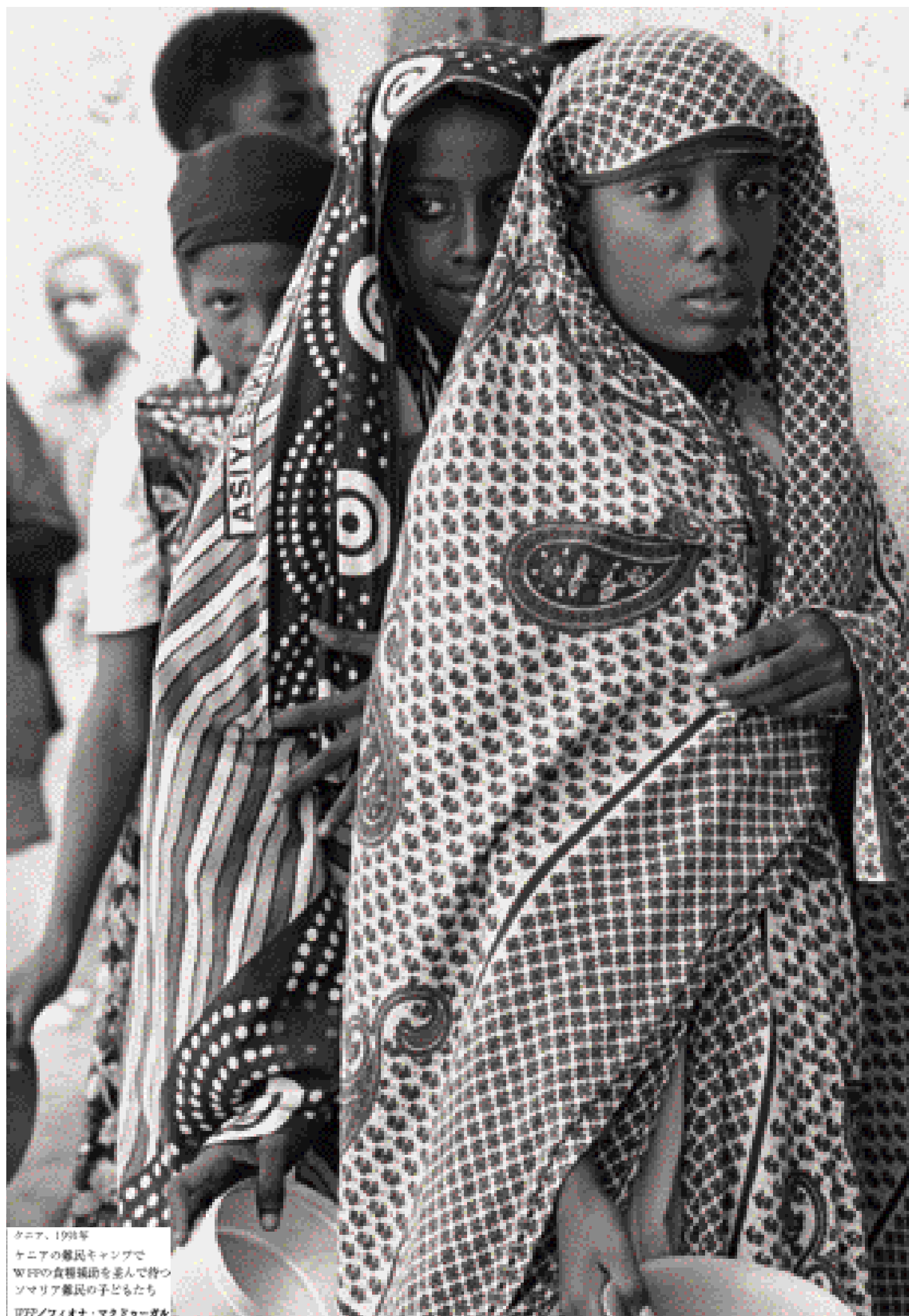
WFPは今日、世界の最も貧しい人々の命を救い、その生活を守るため、すばやく効果的な活動を行っています。餓死を防げるのは、迅速な食糧援助をおいてほかにありません。この目標は、それだけで十分な価値があり、WFPもこれを誇りとしています。2001年中、WFPは50カ国で緊急援助活動を展開しました。緊急事態に直面した4,300万人の命を救い、生活を支えるために用いられた食糧270万トンは、同年

ルワンダ、1996年11月
ルワンダの道端に設けられた配給所で
WFPの緊急食糧援助を受け取る
ザイルからの帰還難民
—WFP/トム・ハスケル



中にWFPが提供した食糧の65%にあたります。緊急食糧配給はしばしば、困難かつ危険な状況で行われます。この緊急食糧配給は、予算の87%を占めます。しかし、手に負えない緊急事態になる前に、適切な措置が講じられていれば、この資金を生活の維持と資産を築くことに用いることができたはずでした。中部アルメニアやインドネシアの干ばつ、バングラデシュの洪水、ベリーズのハリケーンなど、自然災害が引き金となった危機もあります。その一方で、アンゴラ、シエラレオネ、スーダン、アフガニスタンなどでは、武力紛争と内戦から緊急事態が生じています。

WFPは、緊急事態への対応能力を誇りとするだけでなく、飢餓の根本的原因を取り除くという、より幅広い目標も掲げています。目の前の食糧不安が解消されれば、WFPは生活と地域の整備、あるいは多くの場合、その復興へと焦点を移します。危機が去っても、慢性的な飢餓が継続することが多く、それが新たな緊急事態を呼び込むおそれもあります。よって、復興・開発活動は、よりよい明日に向けて取り組む人々を支えることを目的としています。資産を築くこと、男女を問わず子どもの教育を可能にすること、能力育成と栄養回復を図ること…。これらすべては、飢餓の再発を防ぐ投資となります。命を救うことは、多面的な取組みの最初の要素にすぎません。安全で生産的な生活を築くための援助も、それなりの緊急性を備えているのです。



ケニア、1998年

ケニアの難民キャンプで
WFPの食糧援助を運んで待つ
ソマリア難民の子どもたち

WFP/フィオナ・マラドゥーガル

Making Good on

約束を守る



アフガニスタン、2001年4月 —
シャムシヤウ難民キャンプで、
戦争と干ばつを逃れ、WFPから食糧と
調理油を受け取るアフガニスタン難民
WFP／クライブ・シャーリー

40年前のイラン地震に初めて対応して以来、WFPは広い範囲で大規模な活動を展開しています。1962年から2001年までに、WFPは救援・開発活動に300億米ドル以上を費やしていますが、これは年平均で7億5,000万ドルにあたります。また、この40年間で、WFPは100カ国に6,000万トンを超える食糧を提供しました。

1980年代後半以来、WFPは全世界の食糧援助の4分の1から3分の1を提供しつづけています。WFPが「対象を絞った食糧援助(targeted food aid)」において占める割合はさらに高く、その年によって全体の40%から50%となっています。実際、ほとんどの年について、WFPは、全世界で発送された「対象を絞った多国間食糧援助」のうち、95%以上を占めています。

WFPの活動は過去40年間で大きな変化を遂げました。「労働の対価としての食糧(food for work)」プロジェクトや、子どもと妊産婦を対象とした栄養補給プログラムなどの開発活動は、1975年の時点でWFPの活動全体の88%を占めていましたが、この割合はいまでは14%にまで低下しています。

この変化は主として、全世界で自然災害の被災者が増えたことを反映しています。異常気象によって生じた危機の件数は、1960年代から1990年代にかけ、3倍に増えました。また、1980年代後半から1990年代にかけては、武力紛争や政治不安による難民と避難民の数も急増しました。危機の発生による緊急食糧援助の必要性は、エチオピア・エリトリア間で戦争が勃発した1986年、大湖地域で集団虐殺が起きた1994年、そして、バルカンでの紛争、および、朝鮮民主主義人民共和国とスーダンでの飢饉が同時発生した1997年にピークを迎えました。その結果、WFPは過去10年間に、自然災害と軍事紛争から生

ie Promise

エルサルバドル、2001年
WFPから援助を受け取る2001年
エルサルバドル地震の被災者

— WFP / アレハンドロ・チチェリ

じた人道危機に対し、120億米ドル近くの援助を行っています。

今後は早期警戒システムと予防外交への投資増大により、このような人道危機が少なくなっていくことを期待しつつ、WFPはそれと同じく不可欠な開発投資活動も続けています。1990年代には、開発活動に向けられる食糧の割合は減少し



たものの、飢餓対策の投資としてのその重要性は変わっていません。国内の窓口とその他の協力者によって合意された国別プログラムに継続可能な開発活動を組み入れれば、緊急事態への対応時間は大きく短縮され、対象者を絞った援助が可能になります。学校給食プログラムや雇用に基づくセーフティーネットが機能しているということは、配給機構、行政制度および食糧流通ルートがすでに確保されていることを意味します。



朝鮮民主主義人民共和国、1998年

「労働の対価としての食糧」
プロジェクトで、川の堤防復旧を助ける労働者は、
WFPから食糧の配給を受けています。

WFP / トム・ハスケル

同様に、灌漑の整備や土壌と水の管理改善に対する支援は、災害による被害緩和措置に欠かせない要素です。2000年に承認されたWFPの開発プログラム活動のうち、およそ80%は、被害を受けやすい地域に住む弱者が次の危機をしのぐための支援にあてられています。

Getting Food to Those Who Need it Most

2

2001年には、WFPの援助全体の93%程度が、最も苦しい国々、つまり、慢性的な食糧不足に加え、食糧購入のための外貨を慢性的に欠いている国々（低所得・食糧不足開発途上国（LIFDC））に送られました。この割合は1980年代後半には81%となっていました。これに対し、世界全体の食糧援助においてこれらの国々が占める割合は、60%から70%です。WFPの援助は借款ではなく贈与であるため、実質的な移転となり、対外債務を膨らますことはありません。対外債務の重圧と食糧不足に苦しむ最貧国にとって、この援助はなくてはならない存在です。

1960年代から1970年代前半にかけては、アジア太平洋地域がWFPの食糧援助の大半を受け取っていましたが、1970年代半ばからは、重点がアフリカへと大きく移動しました。2001年までに、援助のおよそ50%がサハラ以南アフリカへと流れるようになりましたが、これはWFPが長い間、アフリカを重視していることの表れです。事実、WFPは2001年中、大きな災害に見舞われたアフリカに対し、8億6,400万ドルの援助を行っています。この金額は、国連機関のなかでWFPがアフリカに最も多額の無償援助を行っていることを示しています。

WFPの援助を必要とする国々の内訳は、過去40年間で一変しました。WFPから最初に援助を受けたのは、チリ、コスタリカ、レバノン、韓国、トルコなど、食糧を自給できない国々でした。対象を絞った食糧援助は、重要な時期に、これら諸国の発展に大きく寄与しました。そのおかげで、これらの国々は現在、このような援助から「卒業」しています。そのなかには、自前の社会的セーフティーネットを整備し、国内の食糧資源を用いて、貧困層に対象を絞った移転を行っている国々もあれば、国民の食糧と栄養面での福祉改善に公衆衛生投資を集中させた国々もありますが、これらはいずれも成功を収めています。

まれではあるものの、かつて食糧援助を受けていた国々のなかには、ギリシャ、チリ、韓国など、食糧援助国への転換を遂げたものもあります。近年では、スロバキア、ポーランドおよびインドが、国外の飢えた人々への食糧提供を始めました。対照的に、中国やタンザニアなど、WFP設立後の40年間を通じ、援助を受けつづけている国々もあります。このことはそれ自体、失敗のしるしとはいえません。WFPの活動が時間をかけてもたらした現地での利益は、これらの国々の農業生産性、健康および栄養状態の改善となって現れています。そして、そのそれぞれが、国民所得向上に重要な役割を果たしています。しかし、経済成長だけではすべての食糧不安が解消するわけではありません。WFPは、支援の継続を要請される場合、各国が食糧自給を達成する上で重要な役割を果たすことができます。飢餓を食い止めることにより、その他の開発投資はより早く、かつ、より持続可能な形で結実しうるからです。

コソボ、1999年4月
コソボで、
WFPによる援助のパンを
持ち帰る子ども

WFP／トム・ハスケル





ケニア、2000年2月

WFPの学校給食プロジェクトは、
出席率と成績の改善につながっています。
ケニアのこの学校もその一例です。

WFP/ハナ・バーバリア





シエラレオネ、1996年2月
シエラレオネのリベリア難民
WFP/トム・ハスケル

A Visible Difference

目に見える変化

経

済政策の変更や農業研究への投資による利益は目に見えにくいものですが、食糧援助の恩恵は目の当たりにすることができます。貧しい家庭は、所得の4分の3を食糧に費やさなければならないことが多くあります。食糧配給はこのような家庭の食費を減らし、より安定的な生活の基礎となる医療費や教育費を相対的に増やすことを可能にします。栄養バランスの取れた援助食糧の配給により、子どもたちの発育と成長が可能になり、妊産婦は重要な栄養素の不足を改善することができ、その他の大人たちは、より生産的に仕事ができるようになるのです。

WFPの飢餓・貧困対策において、女性は重要なパートナーです。女性が食糧事情の安定化の構図に中心的な役割を果たすことは、すでに実証済みです。女性は、貧困が広がったときに最も苦しい立場に立たされるだけでなく、家庭の食生活をおもに取り仕切っているからです。食糧援助が女性の手に届くようにすることで、WFPは、食糧が飢えた子どもたちの口に入るという、最大限の援助効果を確保しようと努めています。



コロンビア、2002年4月

WFPの学校給食補助プログラムにより、コロンビアのメデジンの幼児たちは、栄養のある食事をとることができます。

WFP／クライブ・シャーリー

It's About More Than Just Food — It's About the Future

食糧だけでなく、未来も

ボリビア、1996年2月

WFPからの食糧配給により、女性は診療所を訪れ、産前・産後の健診を受けられるようになりました。ボリビアのこの診療所もその一例です。

WFP/フランツ・レメンス



ト ラックで運ばれるか、飛行機から投下されるか、ラクダの背に載せられるかにかかわらず、WFPの活動に共通の特徴は、その人間中心の取組みにあります。どのプロジェクトでも、援助を受ける人々はその成功の原動力となります。

WFP食糧援助の開発面での恩恵は、単なる消費を超え、広い範囲に及んでいます。WFPは設立当初の数年間、鉱工業プログラム、酪農活動、および緊急食糧備蓄と価格安定化基金の立上げを実験的に支援しました。しかし、WFPは近年、その活動を、最も援助を必要としている人々に最も役に立つ、成果が実証済みの活動に焦点を絞っています。

WFPは40年の歴史を通じ、3つの主要な活動分野での専門知識を積み上げてきました。

- 乳幼児と妊産婦の特殊な栄養ニーズの充足
- 学校給食プログラム
- 労働の対価としての食糧プログラム

妊産婦と乳幼児には、特殊な栄養の必要があります。簡単に言えば、十分な量の食糧だけでなく、成長と発達のための栄養素を含む良質の食糧が必要です。胎児期と乳幼児期の飢餓の影響は、一生残ることがあります。妊娠中の深刻なビタミンとミネラルの不足で生じた精神的・身体的障害は、どんな手段でも克服できないことが多いのです。母子の健康増進は、各国の未来への重要な投資となります。



カンボジア、1998年11月
WFPが生徒1人の給食に費やす資金は、平均で1日19セント、年間34米ドルにすぎません。

WFP/ジム・ホームズ

これまでの40年間、WFPの開発投資の約15%にあたる15億米ドルは、母子の特殊な栄養と健康のニーズを満たすために用いられました。通常であれば、診療所に通ったり、識字訓練を受けたりすることができない空腹の女性たちは、WFPからの食糧配給により、母親学級に参加する貴重な時間を得ています。その結果、母子の「隠れた」飢餓への直接的な取組みが可能になり、育児行動の長期的変化が促進されているのです。

歴史的にみて、母子を対象とした投資は、アジアが最大です。よく知られた一例として、インドの総合子ども発育サービス(ICDS)プログラムがあげられます。このサービスは1976年以来、インド国内の食糧不安を抱える地域に暮らすほぼ2,000万人の女性と就

ハイチ、1983年

WFPからの食糧配給は、ハイチの女子識字・手工芸センターでの学習を促進しています。

WFP / パン・アッカー



学前の子どもを対象に、栄養補給、予防接種、栄養・健康教育、医師紹介およびノンフォーマル教育を行っています。WFPは、国産の微量栄養強化食品と教育・物流支援の提供により、このプログラムに参加しています。

第2の重要な活動分野として、WFPの学校給食プログラムがあげられます。栄養が十分な子どもたちは、学校での集中力と成績に優れている傾向が見られるため、WFPは貧しく食糧不安を抱えるコミュニティに栄養のある学校給食を提供し、就学率と出席率の向上に努めています。教育は健康と同様、長期的発展への鍵を握ります。女の子が家に留まることが多い伝統的文化で、男女間格差の解消を助けるため、WFPは、娘が学校に通う家庭を対象に、持ち帰り用食糧を

提供するというインセンティブ（動機づけ）を与えています。この毎月の食糧配給は、女の子が学校に通うことで失われる家事労働力を補うことに一役買っています。教育を受けた女の子は、婚期を遅らせ、健康な子どもを数少なく生み、後により働き口を確保するという調査結果も出ています。

「女性支援（Commitments to Women）」政策の一環として、WFPはその資金の50%をパキスタン、ニジェール、イエメンなどの国々の教育にあて、女子生徒の出席率向上を促しています。学校への支援と、その他の識字・訓練プログラムは1962年以来、WFPの開発資金全体のほぼ25%を占めています。

WFPはさらに、コミュニティの資産を築き、農村インフラを整備する労働の対価としても、食糧を提供しています。市場が未発達で、食料品の価格変動が激しく、かつ、世帯収入のほとんどが食費に消えてしまう国々では、金銭よりも食糧のほうが、肉体労働への報酬に適しています。貧しい人々が生産的資産を築き、これを守るための手助けを行うことは、生活の多様化と自立への鍵を握る要素です。援助を必要とする人々に季節雇用や定期的雇用を提供する一方で、農道、ダム、小さな橋など、現地に合ったインフラを整備したり、土壌を強化する段地によって環境を保護したりすることにより、WFPは家族とコミュニティが自らの手で将来を築く手助けを行っています。1962年から2001年にかけて、WFPの開発資金のほぼ60%が、資産の構築と天然資源の改善にあてられています。

これらの活動にはすべて、食糧消費の増大、物理的・人的資産の活用、基盤の広いコミュニティ開発の促進など、多様な目標があります。事実、成功を収めている活動は常に、効果的な協力関係により、活動が有意義かつ持続可能だという実感が得られるものとなっています。食糧援助は地元住民の参加を強め、食糧不安の根源に取り組むための協力関係を築くことができます。しかし、その成功のためには、WFPが草の根組織、地方自治体および各コミュニティの支援を受けなければなりません。WFPは現在、870の国内・地方NGO、および250の国際NGOと協力しています。このような幅広い協力により、当事者意識と集团的行動への支持が高まっています。



ペルー、1999年4月

WFPの資金提供を受けるペルーのパン屋。現地の女性に生活の糧を得る手段を提供しています。

WFP / クライブ・シャーリー



アフガニスタン、2020年

アフガニスタンでの国際
「気候の村創としての創設」プロジェクトは、
毎年約1000人により持続可能な国内企業と
環境保護を支援しています。

写真/アムール・フ・フ・フ

No Time for Comp

安心してゐる時間はない

1960年代には、開発途上国の子どもたちのほぼ3分の1が、5歳の誕生日を迎える前に死亡していました。40年後、食糧供給と健康管理の改善、貧困の削減、および焦点を絞った貧困対策により、この割合は10%にまで低下しました。ほかにも成果はみられます。慢性的栄養不良の状態にある成人の数は、1970年の9億5,000万人以上から、2000年には8億1,500万人へと減少しました。体重不足の子ども数は、1980年の2億2,100万人から、今日では1億6,000万人へと減り、2020年までにはさらに1億2,000万人へと減少する見込みです。同時期に世界の人口がほぼ倍増していることを考えれば、これは輝かしい成果といえます。



ベトナム、1979年10月
WFPからの食糧援助の対価として、
ナム・タチ・ハン付近の治水・灌漑
水路の建設に携わる労働者

WFP/フランコ・マッティオリ

これらの貴重な成果は、懸命な努力から生まれたものです。しかし、ここで手を休めることはできません。平均的な栄養状態の改善が、今後数十年間で期待どおりに達成されたとしても、飢餓と長期的食糧不安に直面する人々は依然として、数億人存在し続けることになります。過去40年間には、世界全体の穀物生産量が急増し、全世界のあらゆる食糧から得られる熱量は、1961年の1人1日あたり2,255キロカロリー(kcal/cap/day)から、1998年には2,800キロカロリーへと増大しました。人口は増加し続けるにもか



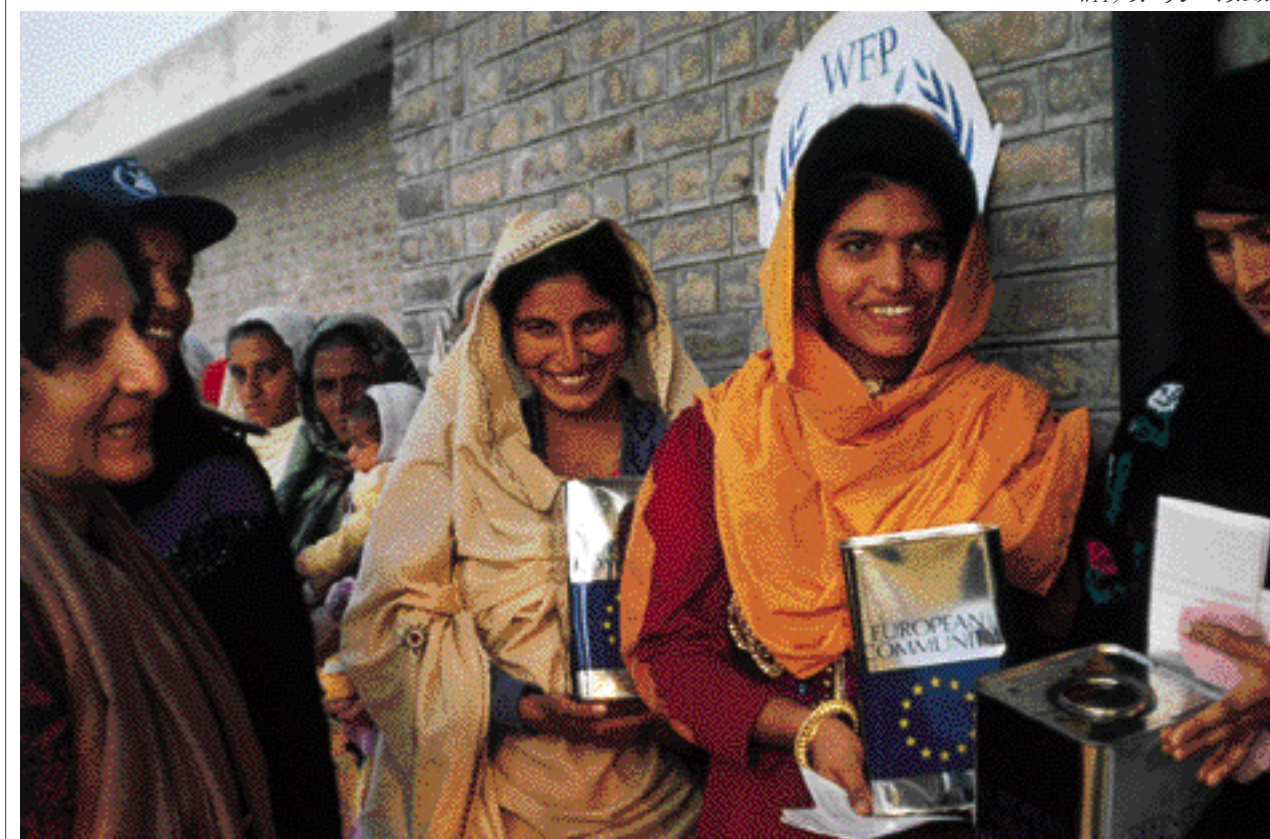
スーダン、1998年11月
WFP配給の穀物と
調理油の投下を受け、
帰宅の途につくスーダンの人々
WFP/トム・ハスケル

かわらず、この数字は2020年までに、3,015キロカロリーに達するものとみられます。しかし、作物収量の成長率は世界のほとんどで低下しているばかりか、近年の急成長に伴う環境破壊により、これまでに最も大きな恩恵を受けていた地域の生産性が制約を受け始めています。よって、今後数十年で持続可能な食糧供給を増大させることは、いままでより簡単とは言えず、むしろ難しくなるおそれさえあります。農業分野での技術革新の必要性は、依然として高いのです。

パキスタン、1998年

WFPからの栄養バランスの取れた配給食糧により、
パキスタンの乳幼児と妊産婦は、
主要栄養素の不足を克服できました。

— WFP / スーザン・マヌエル



しかも、開発途上国の栄養不足は深刻で、5歳未満で死亡するほぼ1,200万人の子どものうち、ほぼ半数以上の死因になっています。でんぷん質中心の不十分な食事しか摂れず、ビタミンや栄養素の不足に陥りやすい家庭も多くあります。特に鉄分、ヨウ素、ビタミンA、亜鉛およびカルシウムが不足すると、事態は深刻になります。また、季節によって得られる食糧が大きく変動するケースもみられますが、これは発育中の子どもにとって特に危険な問題です。不十分な食事は、劣悪な健康管理および衛生設備と相まって、病気になる確率、子どもの学習障害、協調運動障害、大人の身長障害、および成人病（糖尿病、心臓病、場合によっては貧困による肥満症）を増大させます。こうした健康上の制約は、農業における労働生産性の低さ、技術革新の吸収の遅さ、外部の危険（干ばつ、洪水あるいは伝染病）に対する貧困家庭の抵抗力を弱める主因となり、さらに食糧不安を悪化させます。

ですから、無駄にできる時間などありません。将来とはいつも不透明なものですが、全世界数百万の貧困家庭にとって、将来はもう見えています。そこにあるのは苦悩、苛立たしさ、能力の疲弊、そして早死にです。WFPは継続的な飢餓対策キャンペーンを通じ、この将来の姿を変える決意を固めています。

WFP: 「A Powerful Corrective to the Misery on Which Tyranny Thrives.」

WFP: 「圧制の温床となる貧苦を正す、強力な治療薬」

[ジョージマクガバン、1962]

3 年の「試用期間」を終えたWFPの成果は、広く称賛され、この試験的機関を「多国間食糧援助が必要とされる限り」無期限に存続させるべきだとの勧告がなされました（WFP 1965）。これはいまでも当てはまります。1962年、3カ国の約1万人に対する援助という小さな一歩を踏み出したWFPは2001年中、82カ国の7,700万人に援助を提供するという偉大な成果を残すまでに成長しました。

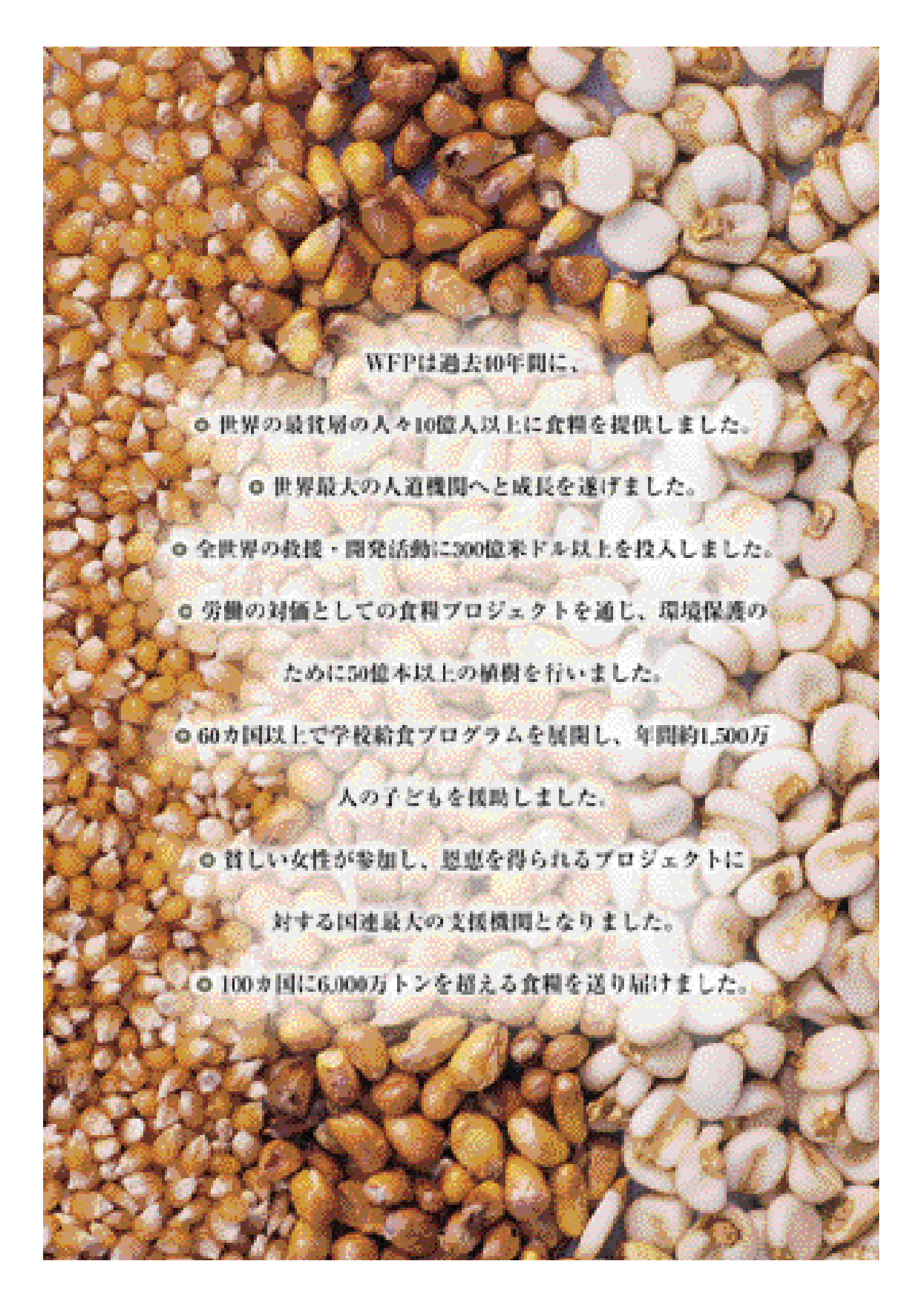


ニカラグア、1996年11月

ニカラグアで、WFPから栄養豊富なおやつ
の飲み物と昼食の援助を受ける
就学前の子どもたち。

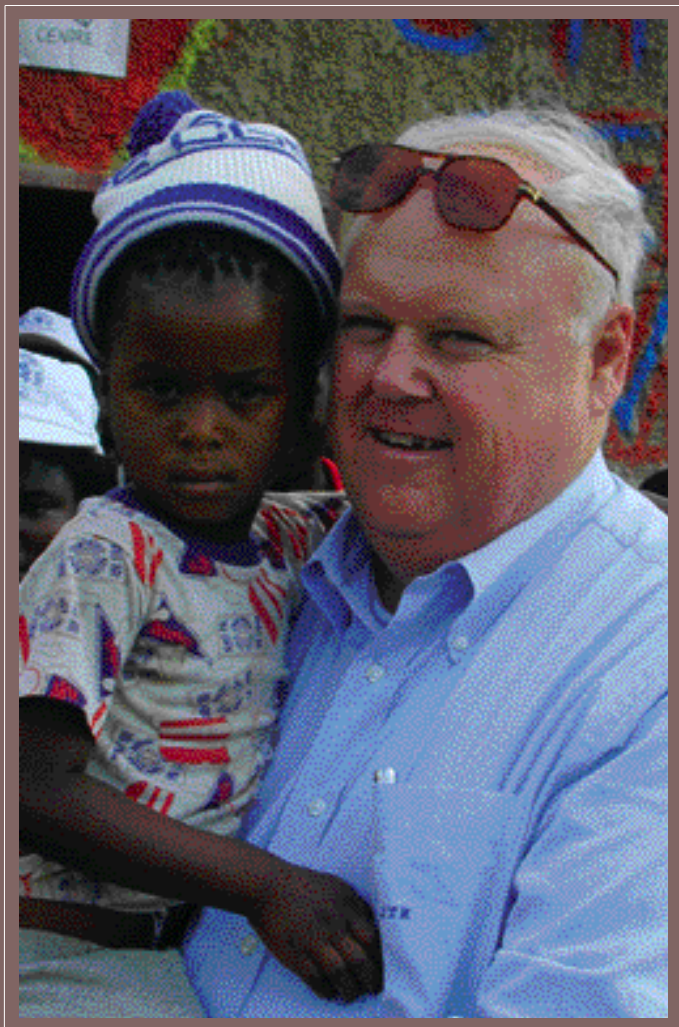
WFP／ルー・デマテイス

もし今日、WFPが存在してなかったとすれば、これを創設せざるをえなかったでしょう。多国間食糧援助は、貧困対策に不可欠な役割を果たし続けるでしょう。その40年の経験により、WFPは今後、これまでよりもさらに活発な役割を担うよう要請されるかもしれません。手をこまねいて見ていることは許されません。事態は切迫しています。食糧確保の約束は守らなければなりません。空腹の子どもを前に、いくら言葉を並べてみても無駄です。飢餓という執拗な圧制と闘い、勝利を収めるためには、行動あるのみです。



WFPは過去10年間に、

- ◎ 世界の最貧層の人々10億人以上に食糧を提供しました。
- ◎ 世界最大の人道機関へと成長を遂げました。
- ◎ 全世界の救援・開発活動に300億米ドル以上を投入しました。
- ◎ 労働の対価としての食糧プロジェクトを通じ、環境保護のために50億本以上の植樹を行いました。
- ◎ 60カ国以上で学校給食プログラムを展開し、年間約1,500万人の子どもを援助しました。
- ◎ 貧しい女性が参加し、恩恵を得られるプロジェクトに対する国連最大の支援機関となりました。
- ◎ 100カ国に6,000万トンを超える食糧を送り届けました。



ザンビア、2002年9月

チランガ・ホスピス子どもデイケア・センターでは、WFPが食糧援助を提供しています。ジェームス・T・モリス WFP事務局長が抱いているのは、援助を受ける貧しい子どもたち180人のうちの1人です。

WFP／ブレンダ・バートン

Bibliography

ACC/SCN (Administrative Committee on Coordination/Sub-Committee on Nutrition). 2000. *Third Report on the World Nutrition Situation*. Geneva, Switzerland: ACC/SCN

McGovern, G. 2001. *The Third Freedom: Ending Hunger in Our Time*. New York, NY: Simon & Schuster.

1961. Statement by the Honourable George S. McGovern, Delegate of the United States of America to the FAO Intergovernmental Advisory Committee, Rome, 10 April, 1961. Reprinted in FAO. 1961. *Development Through Food*. Rome.

Shaw, D.J. 2001. *The UN World Food Programme and the Development of Food Aid*. New York, NY: Palgrave.

Singer, H., J. Wood and T. Jennings. 1987. *Food Aid: The Challenge and the Opportunity*. Oxford: Oxford University Press.

WFP (World Food Programme). 1965. Recommendations by the Intergovernmental Committee to the Economic and Social Council of the United Nations and to the Council of the FAO on the Future of the World Food Programme. MO/IGC: 7/19, 30 April.



WFP日本事務所
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
パシフィコ横浜6階
Tel: (045) 221-2510 Fax: (045) 221-2511
ホームページ: <http://www.wfp.or.jp>

WFP Public Affairs Service
Via Cesare Giulio Viola, 68/70-00148 Rome, Italy
Tel: +39-066513-2628 FAX: +39-066513-2840
Homepage: <http://www.wfp.org>
e-mail: wfpinfo@wfp.org